

A decorative graphic on the left side of the slide, featuring a grid of squares in various shades of blue and purple, arranged in a stepped pattern.

2011年3月期 第2四半期 決算概要

2010年11月

稲畑産業株式会社

2011年3月期 第2四半期 決算総括

<ポイント>

- 売上高は、主力の情報電子や合成樹脂事業に加え、化学品事業も順調に推移し、対前年同期比 22.2%増の2,316億円
- 営業利益は、売上高の増加に加え、利益率の改善等により、全セグメントで増益となり、対前年同期比 321.3%増の46億円
- 経常利益は、営業利益の改善に加え、持分法による投資損失の減少等により、対前年同期比 372.9%増の48億円
- 純利益は、固定資産除却損の計上があったものの、関係会社株式売却益の計上等により、対前年同期比 822.4%増の39億円

連結	2010年3月期 第2四半期	2011年3月期 第2四半期	前年同期比
売上高	1,895億円	2,316億円	22.2%
営業利益	10億円	46億円	321.3%
経常利益	10億円	48億円	372.9%
四半期純利益	4億円	39億円	822.4%
1株当り 四半期純利益	6円58銭	60円72銭	

2011年3月期 第2四半期 B/S

①景気回復基調に伴う棚卸資産の増加

②保有する投資有価証券の時価下落

単位：百万円

（資産の部）				（負債／純資産の部）			
	10/03	10/09	増減		10/03	10/09	増減
現金及び預金	5,463	7,896	2,432	支払手形及び買掛金	84,400	86,891	2,490
受取手形及び売掛金	125,638	125,741	103	短期借入金	41,537	39,922	△1,615
棚卸資産	24,593	29,067	4,473	その他流動負債	6,165	9,847	3,681
その他流動資産	7,135	8,750	1,615	長期借入金	17,226	17,097	△129
有形固定資産	10,787	10,138	△649	その他固定負債	12,170	9,234	△2,936
無形固定資産	7,880	7,141	△738	株主資本	56,841	60,384	3,543
投資有価証券	41,898	35,732	△6,165	評価・換算差額等	10,964	6,647	△4,317
その他固定資産	6,567	6,282	△285	その他純資産	658	725	66
資産合計	229,964	230,749	784	負債純資産合計	229,964	230,749	784

2011年3月期 第2四半期 事業セグメント別売上高

情報電子 ⇒ 対前年同期比 +21.2% 170億円増

- ✓ 液晶関連では、世界的な液晶テレビ需要に支えられ、偏光板原料の輸出が増加
- ✓ プリンター・複写機関連は、海外を中心に業界の生産が回復し、大きく伸長
- ✓ 電子材料関連は、マスク blanks やウエハー関連材料などが増加
- ✓ 装置関連は、LED向け露光装置など新規装置の売上が寄与し、大きく伸長

化学 品 ⇒ 対前年同期比 +18.5% 50億円増

- ✓ 電子材料向け等の樹脂原料が伸長したほか、自動車部品用原料も好調に推移
- ✓ 塗料・インキ・接着剤関連は、エコカー減税の効果から自動車業界向けに回復
- ✓ 医農薬関連でジェネリック薬ビジネスが好調に推移
- ✓ 中間体チームで扱う太陽電池関連ビジネスは引き続き大きく伸長

合成樹脂 ⇒ 対前年同期比 +32.2% 203億円増

- ✓ 高機能樹脂は、自動車、テレビ等の販売回復に伴い回復基調
- ✓ 輸出は、中国向けを筆頭に東南アジア向けも好調で対前年同期比大きく増加
- ✓ 汎用樹脂の国内販売は、価格は低水準ながらも、販売量は対前年同期比増加
- ✓ フィルム、シート関連は、飲料向けが好調に推移した一方、生鮮野菜向けは苦戦

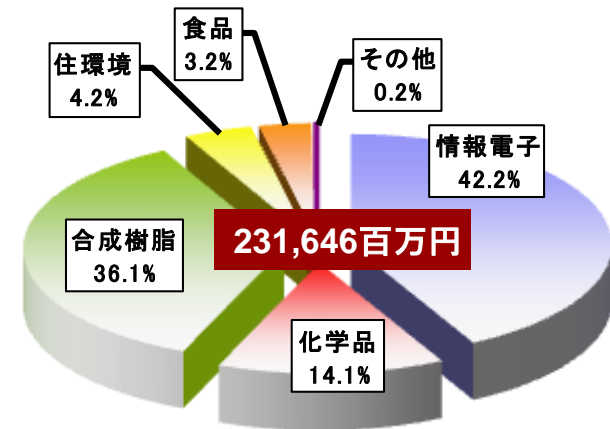
住 環 境 ⇒ 対前年同期比 +12.1% 10億円増

- ✓ 住宅・産業資材関連は、戸建住宅向けの資材販売が好調
- ✓ フロアー、階段、樹脂建材等の新規テーマも順調に推移
- ✓ 木材・建材関連は、木材関連の輸出入が堅調で、特に三国間貿易が好調

食 品 ⇒ 対前年同期比 △11.8% 10億円減

- ✓ エビ、ウニを主力とする水産物は、価格競争が激化し全般的に苦戦
- ✓ 農産物は、主力のブルーベリーは価格下落により低調だったものの、国産冷凍野菜の拡販が進んだこと等により売上増加

事業セグメント別売上高



2011年3月期 第2四半期		
	売上高(百万円)	前年同期比(%)
情 報 電 子	97,855	21.2
化 学 品	32,555	18.5
合 成 樹 脂	83,558	32.2
住 環 境	9,788	12.1
食 品	7,475	△11.8
そ の 他	413	△56.1
合 計	231,646	22.2

2011年3月期 第2四半期 事業セグメント別営業利益

情報電子 ⇒ 対前年同期比 +134.4% 10億円増

- ✓ 主力の液晶関連及び複写機関連を中心に伸長

化学品 ⇒ 対前年同期比 8億円増

- ✓ 機能化学品関連、ライフサイエンス関連ともに総じて好調であったことに加え、ファインケミカルを中心とするフランスでも好調に推移したことから増加

合成樹脂 ⇒ 対前年同期比 +553.9% 15億円増

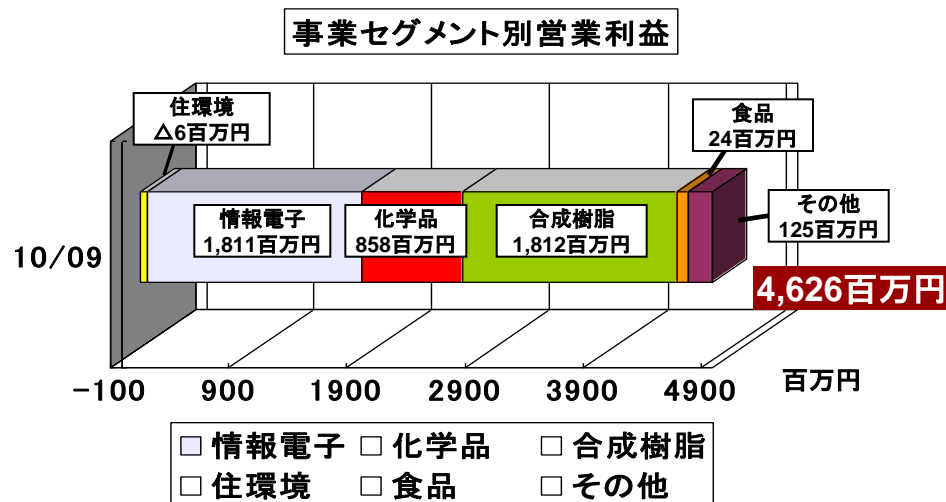
- ✓ 世界不況の影響が残っていた前年同期と比較し、東南アジアを中心に大幅に回復

住環境 ⇒ 対前年同期比 8百万円増

- ✓ マンションやアパートなど集合住宅の着工戸数低迷が続く一方、戸建住宅に回復がみられたことから、対前年同期比微増

食品 ⇒ 対前年同期比 7千万円増

- ✓ デフレによる価格下落の影響などから売上は減少したものの、在庫整理が進展し、粗利率が改善されたことから、対前年同期比微増



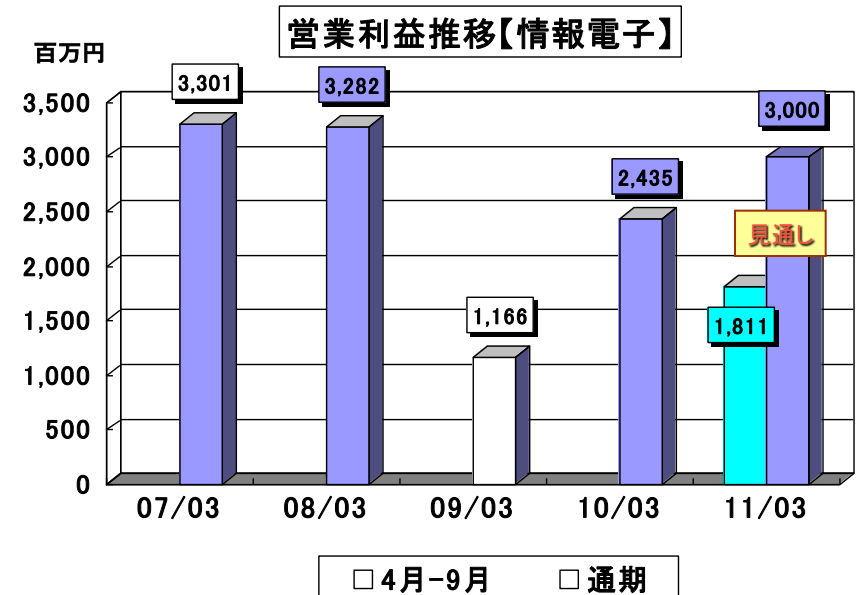
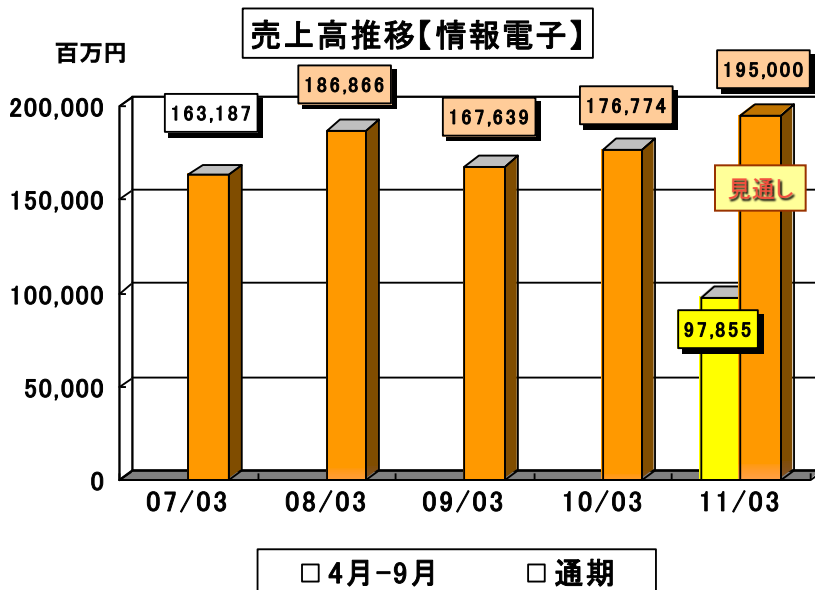
2011年3月期 第2四半期		
	営業利益(百万円)	前年同期比(%)
情報電子	1,811	134.4
化学品	858	—
合成樹脂	1,812	553.9
住環境	△6	—
食品	24	—
その他	125	3.3
合計	4,626	321.3

※前年同期 化学品 △12 住環境 △14 食品 △46 **4**

2011年3月期 第2四半期 主要事業の個別概況(情報電子)

売上高 対前年同期比 +21.2% 170億円増加

- 液晶関連では、8月後半より一部で調整局面がみられたものの、世界的な液晶テレビ需要により偏光板原料の輸出が増加
- LEDを使用した液晶テレビの生産拡大に伴い、導光板などの周辺部材も好調
- プリンター・複写機関連では、海外を中心に業界の生産が回復したことや新規開拓が寄与し、大きく伸長
- 太陽電池関連は、市場拡大が進む中、引き続き新規商材の拡販への取組み
- 電子材料関連は、電子機器及び半導体の堅調な需要に支えられ、マスク blanks やウエハー関連材料などが増加
- 装置関連は、ハンドラーが好調に推移したことに加え、LED向け露光装置など新規装置の売上が寄与し、大きく伸長

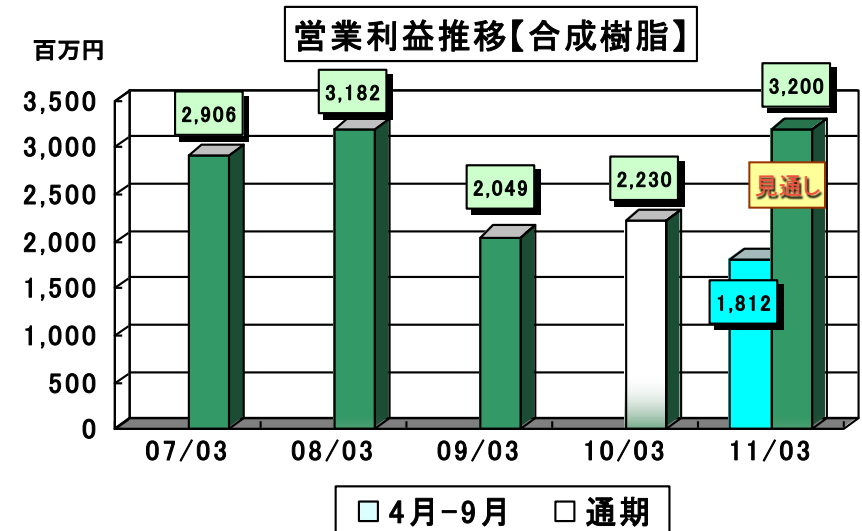
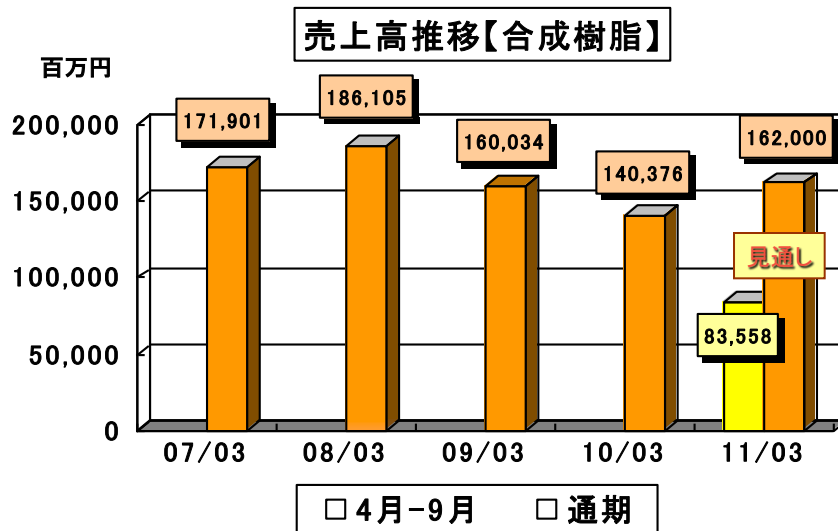


'11年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

2011年3月期 第2四半期 主要事業の個別概況(合成樹脂)

売上高 対前年同期比 +32.2% 203億円増加

- 高機能樹脂は、自動車、テレビ等の販売回復に伴い回復基調となり、輸出は中国向けを筆頭に東南アジア向けも好調
- 汎用樹脂の国内販売は、価格は低水準のまま推移したものの、販売量は対前年同期比増加
- フィルム、シート関連は、猛暑の影響で飲料向けが好調に推移した一方、生鮮野菜向けのフィルム販売は、野菜の出荷が低調で苦戦
- ポリエチレン原料販売は、輸入品の販売が好調で売上、利益ともに大きく伸長
- 国内グループ会社は原料価格上昇の影響を受けたものの、製品価格の維持や経費の圧縮に努め、収益面は好調に推移



'11年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

2011年3月期 第2四半期 地域別概況

東南アジア ⇒ 対前年同期比 +64.5% 138億円増

- ✓ 各国で需要回復が顕著にみられ、大幅に伸長
- ✓ シンガポールは、コネクタ、半導体、家電向けの樹脂販売が伸長
- ✓ タイは、車両、家電、電子部品関連を中心に樹脂、化学品販売が伸長
- ✓ インドネシアは、国内経済の好調に伴い、車両関連、家電向け樹脂販売が伸長

北東アジア ⇒ 対前年同期比 +42.6% 129億円増

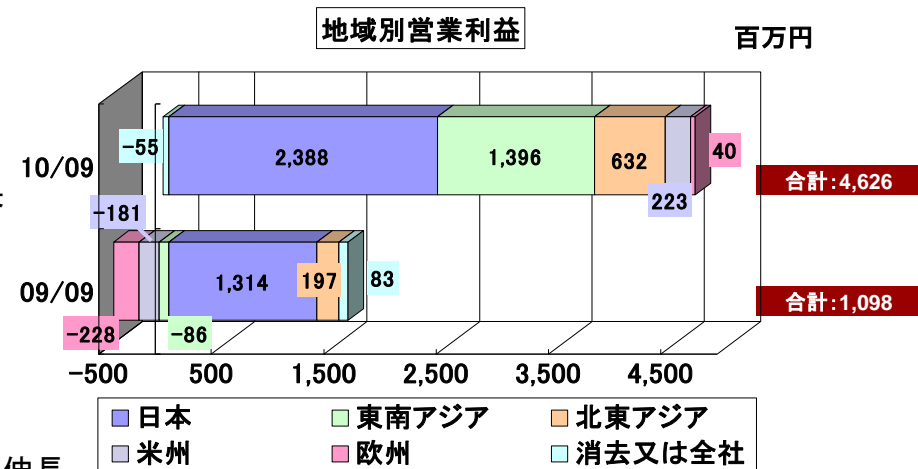
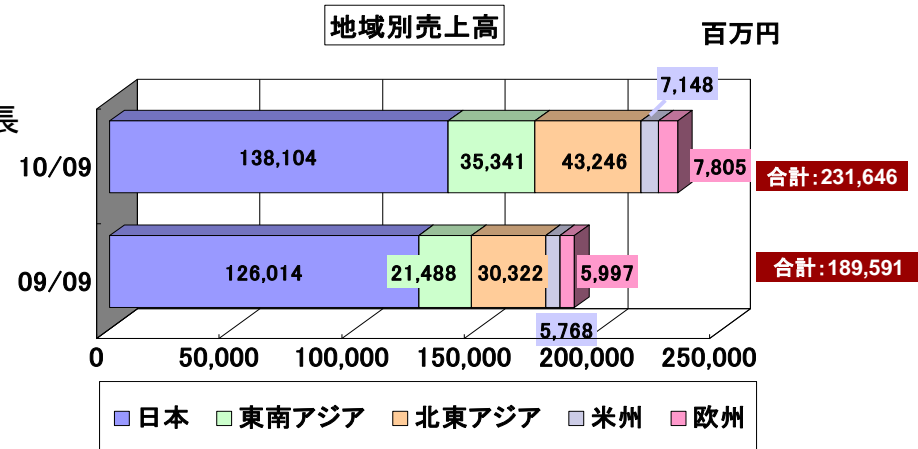
- ✓ 一部製造部門などで苦戦しましたが総じて好調
- ✓ 香港では、合成樹脂、情報電子関連が中国向けを中心に好調に推移
- ✓ 華東では、合成樹脂、液晶関連、化学品等全般的に大きく伸長
- ✓ 台湾、韓国では、液晶関連を中心に大きく伸長

米州 ⇒ 対前年同期比 +23.9% 13億円増

- ✓ 半導体関連では、業界の需要回復に伴いマスクブランクスが伸長
- ✓ ケミカルは、全般的に堅調に推移
- ✓ 前年実績のなかった太陽電池関連の売上が貢献

欧州 ⇒ 対前年同期比 +30.1% 18億円増

- ✓ 欧州では、情報電子や化学品関連を中心に総じて回復基調
- ✓ 情報電子関連は、ポーランドでの液晶パネル材料の販売が大きく伸長
- ✓ フランスではファインケミカルを中心に好調に推移



2011年3月期 第2四半期 連結子会社概況

- アイケイファーマシー(株)は、全保有株式を譲渡したことにより、第1四半期期末で連結の範囲から除外
- 丸石化学品(株)は、株式取得(発行済株式の20%)により、第1四半期期首より持分法適用関連会社へ

	連結子会社状況(内訳)		
	国内	海外	合計
連結子会社	12 (△1)	40	52 (△1)
持分法適用関連会社	5 (+1)	3 (△2)	8 (△1)
合計	17	43 (△2)	60 (△2)

(参考) ()内数値は、対前期末比増減であります。

2011年3月期 連結業績予想(通期)

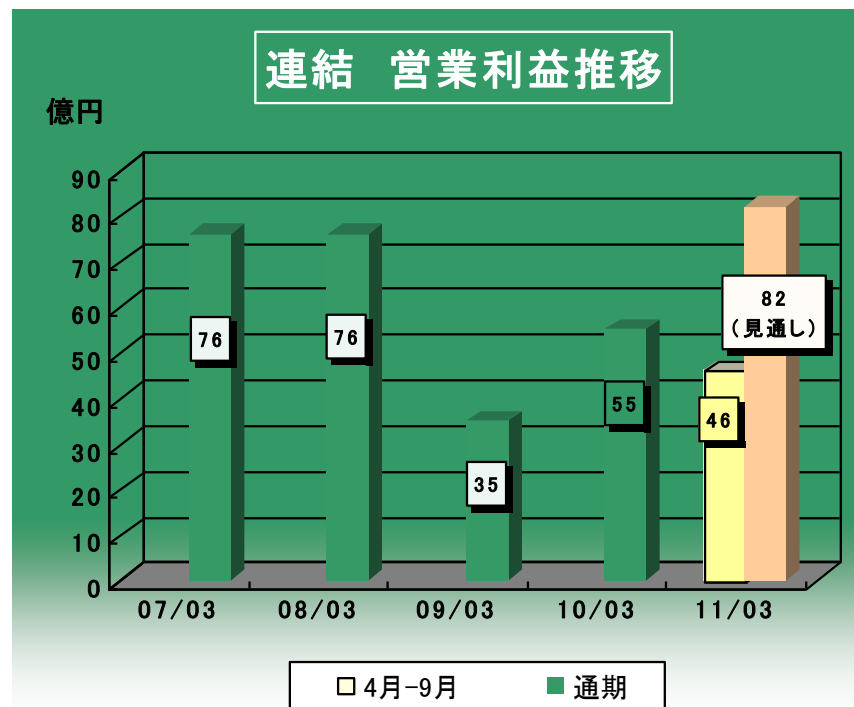
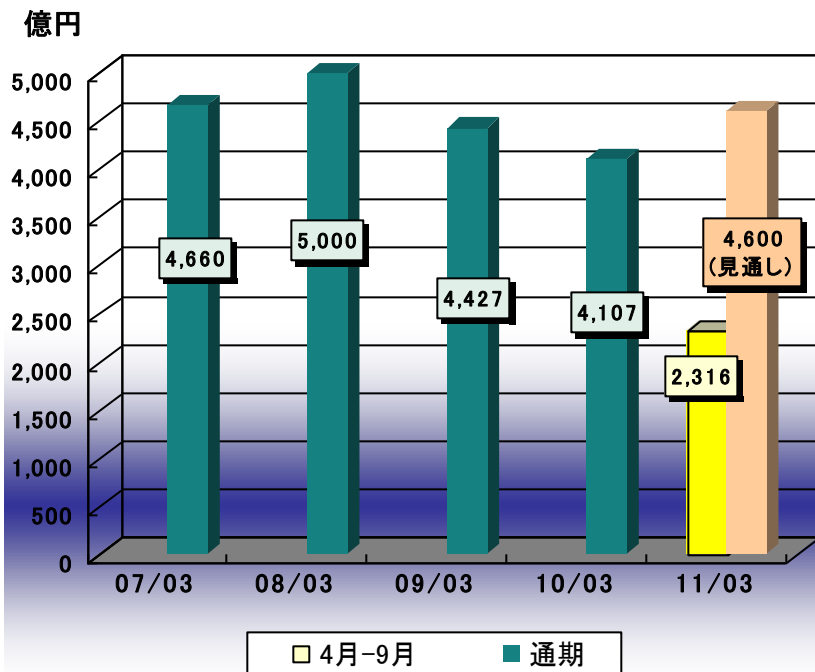
(単位:百万円)

	2011年3月期 第2四半期		2011年3月期 通期見通し (8月10日公表)			
	達成率 (%)		2010年3月期 通期実績	増減	増減率	
売上高	231,646	50.4%	460,000	410,782	49,218	12.0%
営業利益	4,626	56.4%	8,200	5,510	2,690	48.8%
経常利益	4,871	67.7%	7,200	4,889	2,311	47.3%
四半期(当期) 純利益	3,948	65.8%	6,000	1,762	4,238	240.5%
1株当たり四半期 (当期)純利益	60.72	—	92.37	27.08	—	—

'11年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

売上高と営業利益の推移と見通し(07年3月期～11年3月期)

- 引き続き主力の情報電子、合成樹脂を中心に積極的かつグローバルな事業展開を推進



'11年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

株主への還元

(基本方針)

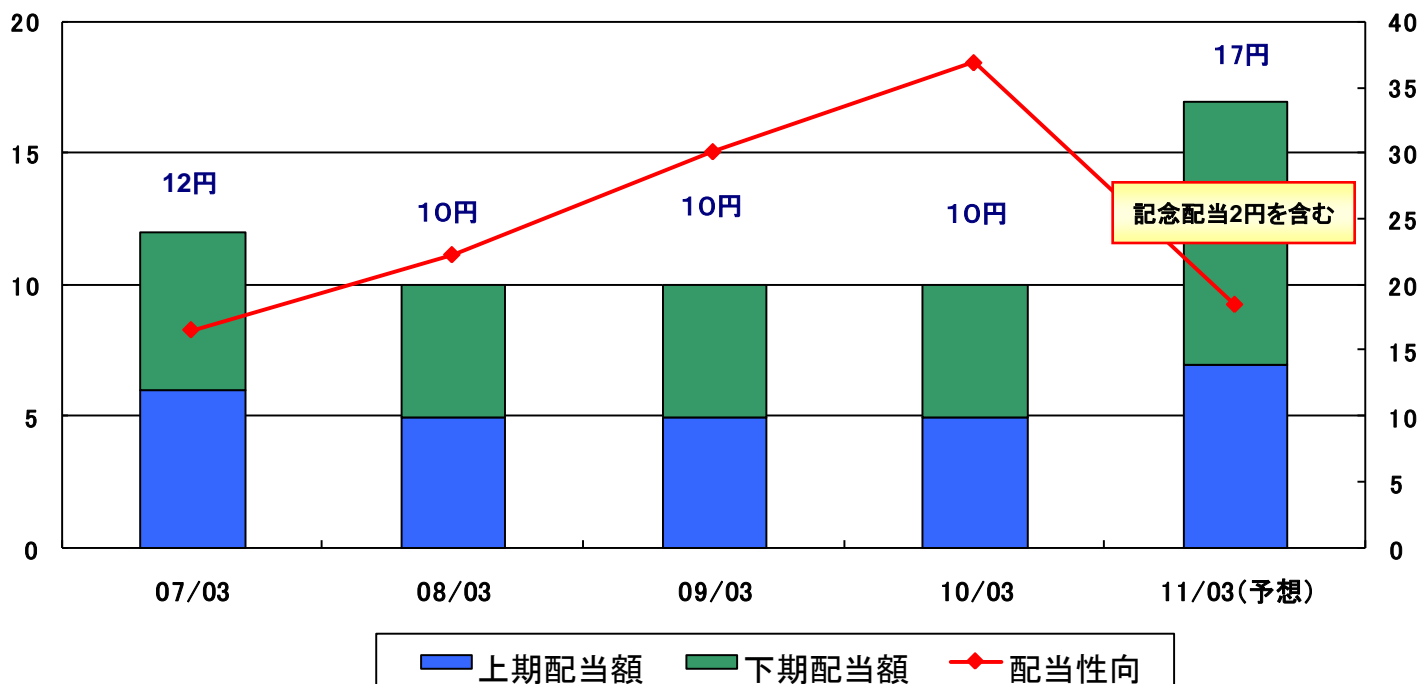
- 事業収益やキャッシュ・フローの状況などを勘案し、連結純利益の**20%~30%**程度を目安とし、今後の企業価値向上に向けての中長期的な投資などを考慮しつつ総合的な判断で決定。
- 利益水準に関わらず、原則として1株あたり最低限**年間10円**の配当金の維持に努める。

(2011年3月期)

- 連結業績における当期純利益が増益となることを予想していることから、普通配当を1株当たり15円(年間)とするとともに、創業120周年記念配当2円を加え、合計17円とする予定です。

配当額(円/株)

配当性向(%)



今後の方針

- 有望なアライアンスの締結の促進と自社企画プロジェクトの拡充
- 引き続き国内外の連結経営を強化、収益力の向上、人材の育成に一層注力する。
- シナジー効果の実現を重点に置いた事業の再構築を推進
- 資金の効率化の更なる向上と財務体質の強化
- グループ会社を含む全社員で内部統制の推進に取り組むとともに内部統制システムの充実を図る